

指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

研究計画書番号	RP-S1-19
研究課題名	原爆被爆者における残存時間加速の定量化
研究責任者（所属）	モーレンツ・エリック（ワシントン大学生物統計学部）
放影研での研究責任者	フレンチ・ベンジャミン
試料・情報の利用目的及び 利用方法	<p>利用目的： 放射線への被曝がどのように加齢に影響するかを評価する新しいデータ解析方法を開発します。特に、被曝から死亡（例えば、がん又はその他の死因による死亡）までの期間がどのように放射線量によって変わるか示す方法を開発します。</p> <p>利用方法： 本研究提案の予定する主要な成果は新しいデータ解析方法を得ることです。これらの方法は寿命調査（LSS）により得られた死亡データに基づいて、放射線被曝と加齢の関連を要約するために用います。全死亡、及び、がんのような特定の死因による死亡について検討を行います。</p> <p>本調査に使用するデータは、放影研の ID 番号を 1 から対象者数までの番号に置きかえることにより個人情報を匿名化し、機密のしっかりしたコンピュータで解析を行います。放影研の ID 番号と置きかえた番号の対応表は、放影研疫学部で施錠できる保管庫 に安全に保管し、外部研究者は使用できません。</p>
他の機関への提供の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有（提供先機関：米国ワシントン大学） <input type="checkbox"/> 無
利用し、又は提供する 試料・情報の項目	放射線量が判明している広島・長崎市内で被曝した人、及び、市内不在者を含めた LSS 対象者を対象とします。LSS 集団について既に収集してある人口動態変数(性別、都市、出生年)、放射線被曝(市内不在の別、爆心地からの距離、DS02R1 による結腸線量)、1950 年から 2009 年までの死亡に関する情報(生死の別、死亡日、死因)などの個人データを 用います。
利用する者の範囲	ワシントン大学 モーレンツ・エリック カローヌ・マルコ フィップス・アマンダ 放射線影響研究所 フレンチ・ベンジャミン

	コローン・ジョン 坂田 律
試料・情報の管理に責任を有する者の氏名又は名称	ワシントン大学
統括個人情報保護管理者	放射線影響研究所 業務執行理事 児玉和紀
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：フレンチ・ベンジャミン 公益財団法人 放射線影響研究所 統計部 住所：広島市南区比治山公園 5 番 2 号 TEL：082-261-3131